

第1回 ISOマネジメントシステム規格の概要

第2回 ISO9001 (品質マネジメントシステム)の構築ポイント

第3回 ISO14001 (環境マネジメントシステム)の構築ポイント

第4回 ISOシステム導入のメリット・デメリット

第5回 ISOシステムの成功・失敗例

第6回 ISOシステムの導入費用(コスト)

『第1回 ISOマネジメントシステム規格の概要』

(株)環境セキュリティ・システム研究所 代表取締役 米ヶ田 健司

★“ISOマネジメントシステム規格”をもう少し分かりやすくいえば、..

“国際基準として経営の仕組みを定めた文書”といえ、少しはわかり易くなるでしょうか。

以下①、②のような言い方もできます。

①“仕事のやり方”の基本ルールを決めること

②「計画－実施－点検－見直し」体系を持った経営管理の仕組みをもつこと

現在までのところ「品質」や「環境」、「情報管理」に関する規格が発行され、世界中の企業等で導入され、認証取得(審査を受ける)されています。日本だけでも、認証取得件数ISO9001で約36000件(事業所)、ISO14001で約12000件に達し、増加の一途です。さらに「安全衛生」「危機管理」「財務」など様々分野でISO規格化が検討されています。

★“一時的な流行か。時代の潮流か?”...

「一時的な流行」として片付けるのは少し難しくなってきたかも知れません。なぜなら、「取引の条件」となるケースが大企業から中小企業へとどんどん増加しているからです(例えば、福岡市役所でも、今年から優先発注や入札の加点制度に組み込まれました)。

★“ISOで仕事のやり方、仕組みを規定する”とは、...

例えば、ISO規格では「方針や目標を定め、実行しなければならない」「〇〇を明確にしなければならない」「〇〇の手順を定め、実施しなければならない」と最低要件として“しなければならない”ことを規定しているだけです。

“どのようにするか”は規定されていません。それぞれの企業が“どのように(活動)するか”は、自分たちのやり方で決めれば良いわけですし、自分たちで決めなければなりません(日本人は、自分で決めることが苦手といわれてきました)。

“ISOマネジメントシステム”に共通して言えることは、うまく使えば“仕事の仕組みを明確化でき”、“いい経営の道具をもつ”ことになるということです。